

## 議 事 要 旨

会議の名称	令和2年度 第3回小牧市市民活動促進委員会
開催日時	令和2年7月18日（土）午後1時から午後3時まで
開催場所	小牧市役所本庁舎6階 601会議室
出席者及び 欠席者	○出席者 【委員】 秦野委員長、三島副委員長、戸成委員、竹中委員、古谷委員、秋田委員、星野委員、大木委員、舟橋委員 協働のまちづくり実務者会議主任サポーター  【事務局】 伊藤支え合い協働推進課長、大塚市民協働係長、高橋主査、松永  ○欠席者 小林委員
会議次第	【内容】 1 令和元年度実施協働提案事業実績報告 2 令和3年度実施協働提案事業ヒアリング
問合せ先	小牧市役所 支え合い協働推進課 市民協働係 電話番号 (0568) 76-1629 (直通) ファックス番号 (0568) 75-8283
会議経過	別紙参照

## 会 議 経 過

### 1 令和元年度実施協働提案事業実績報告

#### 《行政提案型事業①》

事業名：学生ときめきレシピを使っておしゃれに作って食べる料理教室

提案課名：農政課（R2年度～担当課：健康生きがい推進課）

協働団体名：小牧市生活改善実行グループ連絡研究会

～質疑応答～

（三島副委員長）

とても大事な事業であると思う。2つ質問である。小牧市生活改善実行グループ連絡研究会と大学と一緒に取り組んできたことにより、今後の展望はどのように考えているか。また、新型コロナウイルス感染症により家にいる時間が長くなり食への関心が高まっていると思うが、このような状況を踏まえて今後の食育についてどのように考えているか。

（健康生きがい推進課）

1点目の小牧市生活改善実行グループ連絡研究会と大学の取組みについてだが、この事業は若い世代の欠食が多く、若い方に食に関心を持ってほしいということから始まった。中部大学の学生にレシピを考案していただき、何年も食に関する活動されている小牧市生活改善実行グループ連絡研究会と市と3者で密に連携し、補完しながら事業を進められたと思っている。リハーサルの際には小牧市生活改善実行グループ連絡研究会が講師となり、学生たちに飾り巻き寿司やこんにゃく作りの講習をとおして新たな交流が生まれた。社会情勢を注視しながらつながりを大切にして、それぞれの強みを活かして連携し、今後も食育を進めていきたい。また、今後の事業の展開についてであるが、食育については様々な視点から考えていくことが大切であると思う。今年度このような情勢を踏まえ実施した事業であるが、6月が食育月間、毎月19日を食育の日としており、6月19日にドライブスルー型のフードドライブを行った。65名の参加があり、食育の推進をPRするとともに食品ロスの削減、環境問題について考え、いただいた食品を生活困窮者の支援につなぐことができた。今年度から食育を担当する健康生きがい推進課は市民の健康、生きがいづくり及び支え合いづくりに関する施策を推進していくので、今後は健康づくりの視点も意識しながら事業の展開をしていきたい。

（三島副委員長）

食育は様々な団体と行うことができると思うので、団体間の連携によって相乗効果につながると思う。今後そのようなことにも期待したい。

（秋田委員）

提案である。レシピを大学生がSNS等で発信していると思うが、新型コロナウイルス感染症の影響で動画配信が主流になっていると思う。この事業は終了しても作っ

たメニューを動画で配信することにより道具として残すことができる。動画を撮る訓練は必要かもしれないが、これで終わらせるのではなく、そのようなことを担当課で考えていただけるとこの事業を別の形で活かせるのではないかと思った。

(健康生きがい推進課)

現状ホームページにレシピ等を掲載しているが、動画には至っていない。このような情勢であるので、新たな手段として検討していきたい。

(星野委員)

今おっしゃったホームページを拝見すると確かに掲載されているが、若い世代をターゲットとしているにはアダルティというか地味という印象である。ホームページを作っているが、当初の目的の対象まで広報がっていないのではないか、広報が少し弱いのではないかと思った。そこを改善するとより大きな成果に近づけると思う。

(健康生きがい推進課)

反省点として参加者のうち若い世代の参加が思ったより少なかったもので、広報に考える点があったのではないかと感じている。

#### 《市民提案型事業①》

事業名：小学校区別交通安全マップ作成事業

提案団体名：爽調会

協働担当課名：道路課

～質疑応答～

(戸成委員)

交通安全マップの作成のプロセスがよく分かり、良いものができたと思う。作成した後の活用とその効果、また、アップデートや見直しが必要であると思う。そのあたりの今後の活用についてどのように考えているか。

(爽調会)

今回PTAの方にご意見をいただき作成した。小学生に向けて作成したが、可能であれば事業として小学生にどこが危険かワークをしてもらい、地図を作り変えていけたらという思いはある。ただPDFで作成しているため、加筆する時に工夫が必要であると感じている。

(戸成委員)

ぜひ有効な活用、更新していただくよう期待している。

(大木委員)

先日小木小学校に行き、お話を伺った。地図はとても分かりやすく、休み時間に子どもたちが危険な場所を確認していると聞き、良かったと思っている。できたら「子

ども110番の家」の場所も記載されるとより活用しやすいものになるのではないかと話を伺ったので、お願いしたい。また、他の小学校区には既に交通安全マップがあると伺ったが、このような形で作られているのか。

(道路課)

「子ども110番の家」の記載に関しては関係部署と今後協議してからになる。過去のマップについては愛知県及び愛知県警より要請があり、道路課が中心となって作成した。交通危険箇所がかなり示されていて少し複雑な部分もあると思う。それに比べて今回作成した交通安全マップはPTAの意見を最大限取り入れて分かりやすいマップになったのではないかと考えている。

(古谷委員)

「安全」という視点で見ると交通もそうであるが、台風その他、こういったものも災害となり安全を脅かすものである。小牧市には洪水ハザードマップというものがあり、これと交通安全マップを上手に組み合わせる方法を考えていただき、校区で広めれば今後さらなる校区の安全性に寄与できるのではないかと提案である。

(道路課)

先週から大雨が続いており、被害があちこち出ている。そのようなマップとリンクできると良いと考えているが、関係部署との協議が必要である。

(竹中委員)

利活用について、小学校だと1年生から6年生までいるので、特に低学年だと提示するだけではなかなか理解できないと思う。可能であるなら学校の授業でレクチャーして共有できると良いのではないかと考える。また、低学年、中学年、高学年と標記を区別して分かりやすくするのも良いのではないかと考えた。

(爽調会)

低学年なら通学路をなぞるだけでも危険箇所を知ってもらえると思った。ぜひ授業で活用していただけたらと思う。

#### 《市民提案型事業②》

事業名：中学生英語スピーチコンテストの開催

提案団体名：小牧・ワイアンドット友好市民の会

協働担当課名：学校教育課

～質疑応答～

(竹中委員)

何年も継続されているので、実施の方法は精練されていると思う。中学生を対象としているが、小学生や高校生に範囲を広げる見とおしはないか。また、参加者の人数の課題を挙げられていたが、コンテストで賞を取った生徒のその後について、学習の

モチベーションが上がり、留学したなどサクセスストーリーのようなものを広報すると興味を持つ生徒が増えるのではないかと思う。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

今のところ中学生に限定しようと思っている。範囲を広げれば広げるほどマンパワー、費用が必要になるので難しい。後半の話については昨年度、中日新聞に掲載していただき、受賞した生徒のモチベーションになったと思う。今年度についてもモチベーションにつながるような工夫ができればと考えている。

(竹中委員)

様々な要因があると思うが、範囲を広げれば単純に参加者数が増えると思ったので提案した。

(秦野委員長)

団体としての役割と行政としての役割それぞれあると思うが、ここ何年かで英語の授業の仕方がかなり変わってくると思う。「中学生英語スピーチコンテストの開催」は単独の事業であるが、学校教育課がどのようなスタンスでこのスピーチコンテストを迎えていくのかの流れが分かると参加者も増えてくるように思う。そのあたり学校教育課がどのように捉えているのか聞きたい。

(学校教育課)

英語教育に関しては令和2年度から小学校英語が教科化されたため、学校教育上は昨年と比べて英語教育の仕方がかなり変わってきている。ただ、今年度は新型コロナウイルス感染症のため、いつも通りのスタートができなかった。審査員として来ていただいているALTの先生は令和元年度までと令和2年度からと契約方法を変えたり、会社が変わったりして令和2年度から新たなALTの先生が来ることになったが、正に新型コロナウイルス感染症の影響で海外から日本に来て研修を受けて学校に入るという流れがスムーズにできておらず、課題になっている。少しずつ軌道にのりつつあるので、読み書き以上に英会話から入っていく英語教育が変わってきている。そういった中でこの英語スピーチコンテストに徐々に導いていきたいとは思っている。

(実務者サポーター)

実績報告及び評価チェックシートに「思ったより参加者が少なかった」と記載があるが、人数が伸びなかった要因分析等はされているのか。

(学校教育課)

令和元年度スタートした段階ではチラシが一人1枚という状況ではなかった。第1回目ではだいたい5人に1人という印刷だった。これは周知が徹底できていないのではないかとということで令和元年に向けては一人一枚の印刷に予算を変更し、印刷を増やした。一人一人にチラシがわたるよう改善はしたが、結果はなかなか人数が増えなかった。開催日時について打合せをする中で中学生が参加しやすい日程を考えるが、

意外と忙しい。夏休みに入っても部活の大会があったり、お盆はお休みをしたり、学校行事もちょこちょこ入ったりと防災訓練があったりと中学生の視点にたったベストだろうという日程で組んでいるものの頑張っている子は本当に頑張っているのではなかなかここまで力を使えないのかなという気は若干する。団体と話して、参加者数を増やしたいという思いはあるが、強制的な参加というのは例えば「各学校から代表を出す」というのも一つのやり方だが、本当にやってみたい、チャレンジしたいという生徒が出にくいというのもあり、今のところは強制的な形で会を盛り上げていくのではなく、本当に出たいと思う子を優先に今後会場変更してスピーチコンテスト自体をPRして大きい大会、盛り上がったスピーチコンテストにしていきたいと今は考えている。

## 2 令和3年度実施協働提案事業ヒアリング

### 《市民提案型事業①》

事業名：中学生英語スピーチコンテストの開催

提案団体名：小牧・ワイアンドット友好市民の会

協働担当課名：学校教育課

～質疑応答～

(戸成委員)

スピーチをされる参加者の応募は本選も含めて何名いるか。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

本選はなく、応募された方が全員参加できる。参加されたいということであればぜひ参加していただきたい。予備選のようなものはない。

(戸成委員)

副賞として何かが出るのか。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

最優秀賞、優秀賞、努力賞として参加者全員に図書カードを用意している。

(戸成委員)

市に質問である。友好都市に中学生を派遣しているが、このスピーチコンテスト優勝者が姉妹都市の派遣に行くことができるとするのは難しいのか。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

それはないと思う。派遣は抽選であるので、スピーチコンテストに参加したから配慮はしていないと思う。

(学校教育課)

令和2年度の派遣に向けて昨年度に応募を行い、かなり多くの応募があった。全員が行きたい方なので抽選にもかなり気を使い、公開抽選をして行く方を決定している。所管がシティプロモーション課であり、ここでインセンティブを付けるのはなかなか難しい面があると思う。

(戸成委員)

このコンテストがみんなの憧れるものにしていくには「このコンテストに優勝すると姉妹都市に行ける」という構造的なものを作ると予選を行わないといけないぐらい応募者が増えると思う。

(秦野委員長)

事業は素晴らしいが、なかなか人が集まらないという前年度の報告だった。会場も便利な所をとという話があったが、愛知文教大学は留学生が多く、英語を母国語とする学生も多いと聞いている。例えば、会場を大学の協力を得て大学で開催するなど事前にコミュニケーションの場を作り、いきなり本番の募集をするのではなく、途中の経過を作りながら本番に向かっていくような流れを作れると知名度も広がり、参加者も増えるのではないかと思った。大学との連携という新たな協働のスタイルだが、このようなことは考えていないか。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

愛知県にいくつも英語スピーチコンテストがある。東邦大学や中部大学は自分たちで中学生英語スピーチコンテストを開催している。特定のところと連携すると良いところと悪いところがあると思う。人数について、去年は中学生が他のイベントと重なり、今回は新型コロナウイルス感染症の影響がある。アクセスの良さも含めて学校教育課に中学校にアピールしてもらい、とりあえずは小牧の中でできる形で増やしていこうと考えている。

(三島副委員長)

自由なテーマで3分話しなさいと言われて話したいことがすぐ出てくる生徒は多くはないと思う。話したいことはあると思うが、少しハードルがあると思う。「どんな話がしたいか」とざっくばらんに話す場を作り、1、2週間サポートしてから当日を迎えるという形にするとハードルが低くなるかもしれない。また、新型コロナウイルス感染症や新しい図書館についてなど、テーマを与えると話すことを考えやすいかもしれないので、選定テーマと自由テーマ混合で行うなど新しい工夫をその年その年でしていくと良いのではないかと思うが、いかがか。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

これまでは自由なテーマの方が良いのではないかと行ってきた。昨年か一昨年の参加者6名中3、4名が海外移住経験者であったため、自分でテーマがあった。提案いただいたいくつかのテーマも与えながら、会としても相談に対応する体制を作ることはできると思うので検討していきたい。

(舟橋委員)

スピーチの形態の確認である。事前に準備した原稿を読む、暗記して話さなければいけないなどの条件はあるのか。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

条件ではなく、審査基準にある。話の内容、発音の正しさ、原稿を見ずに話すという審査基準を事前に配布している。原稿を見ずに話してほしいというのは審査員から意見があった。

(舟橋委員)

発表する方の原稿を事前に確認したり、内容の指導をされたりはしないのか。

(小牧・ワイアンドット友好市民の会)

今は行っていない。相談があった場合は相談に乗るが、事前の確認は前提ではない。

## 《市民提案型事業②》

**事業名：桃花台の活性化事業**

**提案団体名：桃花台を考える会**

**協働担当課名：東部まちづくり推進室**

～質疑応答～

(秋田委員)

ずばり桃花台の魅力とは何か。

(桃花台を考える会)

桃花台に住んでいて思うのは、非常に優れた都市計画で作られ、朝晩車の通らないような道路があり、大小たくさんの公園がある。また、桃花台の周囲を見ると我々も知らないような名所、旧跡がたくさんあり、市民四季の森や温水プールなど家族がそろって楽しめるような施設もある。さらに市の計画を議会等で傍聴すると農業公園やスマートインターなど皆さんが関心を持っていただけるような施設もできてくる。非常に洗練されたまちづくりの良さとそれに囲まれた周囲の環境と設備の良さが魅力だと思っている。

(秋田委員)

「魅力発信」ということで具体的に伺った。今おっしゃられたのは建物などのハード面である。それにプラスして「音楽のまち」というソフト面のテコ入れをされていく。どうしても桃花台の話題となると新聞などでデメリットの話題が多いので、それを覆すぐらいの例えば、都市部集中ではなく、新型コロナウイルス感染症の渦中でも密集せずに散歩できる場所があるなどメリットではないが、そのようなことがハード面、ソフト面でもっと出てくると分かりやすいのではないかと思う。イベントで魅力



発信を行っていくとのことだが、イベントの開催が難しければ、発信していくものに対してもっと力を入れるとイベントができなくても伝わる部分があるのではないかと考えた。

(大木委員)

若い世代に選ばれるまちづくりをされていくとのことだが、中学生など子どもたちが活躍できる場を提供することは考えているか。

(桃花台を考える会)

第1回桃花台音楽まつりで桃花台出身のピアニストであり、桃花台区長会から桃花台文化大使を委嘱されている前田陽一朗氏にピアノ演奏会をしていただく。その前田氏とコンサートの前に時間をとり、桃花台内の中学生を主体にトーク会のような会を事前に行い、中学生たちに意識付けをしていき、このまちへの関心を持っていただくことから今年度始めていこうと思っている。昨年度に桃陵中学の校長先生と生徒たちがこのまちをどのように考えているかのディスカッションを3月に行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期している。子どもたちの意見を聞く機運は作りつつある。新型コロナウイルス感染症もいずれは収束するから行おうとしていることが次につながるように布石は打ちつつある。

(大木委員)

今中学校ではボランティアでイベントの手伝いをしているので活用して、ぜひこのまちにずっと住みたいと思ってもらえるような子どもたちが増えると良いと思う。

(古谷委員)

盛りだくさんの計画を立ててらっしゃる。計画というのは良い面と悪い面が必ずあるものだと思う。今、桃花台が「魅力がない」と言われるのは魅力がない部分もあるからだと思うので、この際反省をして、これからしようとしている様々なメリットのある音楽によるまちづくりと空き家対策を十分に行い、せっかくある家を有効利用するとともにさらに新しい人が入ってくるようなまちづくりをされると思うが、今まで計画通り進まなかった理由が必ずあると思うので、それを分析されると、これから進む道、展望が開けてくるのではないかとと思う。ぜひ検討いただきたい。計画を作る上で行政も加わるので、一地区というより小牧市全体の市民の利益にも関わってくる問題になると思う。そのあたりの利害得失を慎重にご検討いただいた上で計画を立案し、推進していただきたい。

(竹中委員)

事業の目的も非常に素晴らしく、そのための手段としての取組みも素晴らしいと思う。回数を重ねているが、文化の醸成はすぐにはできないと思う。10年以上かかることもあると思う。繰り返し取り組んでいるが、昨年と何が違い、具体的にどのぐらい目標に近づいたのか、もしくは遠のいてしまったのかの展望が少し分かりにくい。3年、5年ぐらいの計画を立てて、ロードマップを作成し、どのような変化があった

かが可視化できると次が変わってくるのではないかと思います。

(戸成委員)

「空き家予防」と「空き家対策」と書かれていて、講師と呼ばれるが、講師の方は空き家を作らないという話なのか、それとも空き家が発生した時の対応策、まちの安全の話がされるのか。

(桃花台を考える会)

住民としてできることとして第一に空き家予防だと思っている。空き家ができた時に空き家に対して何かをするということは我々にはなかなか術がない。実際住民、私自身であるが、空き家にしないような仕組みを次の世代に残さなくてはいけないと思っている。そのためにはどのようなことをすれば良いか、相続の方法などを講師に話していただこうと思っている。講演会でもあり、セミナーでもある。講演会ではもう少し広く、空き家が日本全国でどうして増えているのか、その空き家を増やさないためにどう考えていかななくてはいけないのかをお話いただけたらと思っている。講師は空き家問題の専門家であり、今年の3月15日に講演会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症のため開催を中止した。今年度すぐ行うのではなく、来年度に啓蒙の講演会とセミナーをうまく組み合わせようと思っている。規模は小さいが、セミナーは今年度から行おうと思っている。我々は予防を主に今までも考えて、活動してきた。

(戸成委員)

それは桃花台に住んでいる人たちに対して行うのか。

(桃花台を考える会)

そうである。

(戸成委員)

私は日進市に住んでいるが、35年ぐらいの分譲団地である。この15年で3分の2が建て直し等で入れ替わった。常に新しいまちになり、次から次へと新しい人が入ってきてお亡くなりになる方もいらっしゃる。次の方が購入されるもしくはお子さんが入るといって入れ替わり、今人気のある地域である。桃花台の場合は講演で何を住民の皆さんに訴えるのか。イメージがわからない。

(桃花台を考える会)

講演会では日本で空き家問題の第一人者と言われている方を講師に呼ぼうと考えている。住民の皆さんに今住んでいる人が空き家をつくることを伝え、空き家にしないように考えていただくことが狙いである。

(戸成委員)

住んでいる人がお年寄りになり、お亡くなりになるというのもあると思うが、お子

さんもいらっしゃるだろうし、その人たちがなぜ戻ってこないのか。それも含めると、空き家問題は地域のブランド戦略をしていかないと根本解決にはならないのではないかと思います。桃花台は小牧市で大きな柱である。桃花台のブランディングを考えないと本当にゴーストタウンになっていくと思うが、行政はどう考えているか。

(東部まちづくり推進室)

今年の1月に空き家の総合的な対策を目的として愛知県の宅地建物取引業協会と協定締結し、空き家の総合相談窓口を開設、併せて小牧市の空き家バンクも開設している。空き家になってしまっているところの売買や賃貸の相談をしたいということであればこの窓口を利用していただける体制をとった。先ほど鶴飼代表が言われた空き家にさせないという予防も大事であるので、事前に相談していただける体制も作っている。地域ブランドについて話があったが、まさにおっしゃる通りである。我々は都市計画課の居住推進係も兼任しており、市内全体の空き家の対策も行っている。空き家の対策を進めている中で、東部地域で一つ重要だと思っているのは東部地域の魅力をどのように作っていくかである。そこには弱点があると思うが、見方を変えれば強みにもなると思う。空き家は裏を返せば有効利用することができるというふうに考えていく必要があると考えている。

(戸成委員)

ぜひ鶴飼代表も含め皆様でご尽力いただき、桃花台に住みたいという人たちが増えてくると良いと思う。

(桃花台を考える会)

3本の取組みは恐らく間違っていないと思っている。あとはどのように展開していくかが一番の課題である。一番の狙いはまちの活力を失わないことである。そのことを見失わないように3本の柱をどう展開していくか。心ある人に集まって協力していただかないとできない。そして行政の支援をいただいて展開していけたらと考えている。

#### 《行政提案型事業①》

事業名：「一箱古本市」の開催事業

提案課名：図書館

応募団体名：家庭文庫ぱれっと

～質疑応答～

(竹中委員)

スケジュールに「企画会議」とあるのでこれから決めていかれると思うが、どれぐらいのブース、出店者の募集を想定しているのか。また、どんな人が来るのか分からないので、どんな本を持ってくるかも分からない。不適切な本や思想が偏った本も出される可能性がある。そのあたりについてどのように考えているか。

(図書館)

他市の例を見ており、田原市では大変細かいマニュアルがある。それを見ると出店者は10名～20名ほどで出店者の条件もマニュアルで決まっている。どの本が持ち込み禁止かなど詳細に決めていかななくてはならないと考えている。初めて行うので詳細に決めていかななくてはならず、そのあたりは十分想定して行っていきたいと考えている。

(舟橋委員)

物品の売り買いという行為であるので、その収益に対する税金の問題などいろいろ考えると不安を感じる。法律的な決まりがあると思うが、認識とその対処はどのように考えているか。

(図書館)

金銭については基本的に収益を集めて分配するという考え方ではなく、我々は仲介しないので、全て店主の利益になり、店主が責任を持って金銭の管理をしていただく。お釣りも用意していただき、一人一人が店主という考え方である。会場の許可等についても今想定しているのが新図書館のイベントスペースとって集まれば100人程度集まれる場所がある。ただそこにどのように店を配置するかを今後考えなくては行けない。トラブルの無いよう露店のように段ボールを並べる。一つの考え方としては目的外使用許可という形でできないかと考えているが、そのあたりは庁内で十分に調整して進めていきたいと思っている。

(古谷委員)

本は有料という考え方で話が進んでいるが、物々交換というように無料という考え方にはならないのか。無料であれば税金や許可の問題が無いと思う。他の事例も含めてあったら教えてほしい。

(図書館)

本を売ることに對して無料ではどうかという話だが、金銭についての懸念は確かにある。他市の事例でもこの「一箱古本市」は販売事業である。そのため、この名称を使うとなると売り買いが発生する。他市の例ではイベントの一環としてリサイクル市を開催して無料で交換会をしている。今後の検討として一つの方向だと思うが、今は店主のメリットの一つとして高額な値段をつけるのではなく、100円や200円ぐらいで行ってみてはどうかというのが私の考えである。

(三島副委員長)

役割分担で団体に果たしてほしい役割に「実行委員会」と記載がある。今回の事業は家庭文庫ぱれっとが手を挙げているが、他の団体と関わることも考えているのか。

(図書館)

実行委員会と記載したが、基本的には家庭文庫ぱれっとの実行委員会である。他

の団体との連携は今のところ考えていない。

(三島副委員長)

最初の取組みなので、まずは家庭文庫ぱれっとだけでスモールサクセスを作るのも良いと思うが、目的はいろんな切り口で図書館に来ていただくことだと思うので、当日ちょっとしたお手伝いを子育て団体に頼むなどの協力の可能性を考えていただくと良いのではないかと思った。

(図書館)

余談であるが、可能であれば商店街のイベントに併せて開催するとより効果があるのではないかと思っている。

(星野委員)

家庭文庫ぱれっとは10年ほど様々な活動をされているが、一箱古本市でも市民の活発さが失われない形でコラボレーションを行っていただきたい。今の目的外利用のことなどを考えると公共の場所で物販というのは私が事業として行う場合も難しいものがあり、大変なことだと思う。その中で行うので、市民の自由活発さが失われないようお願いしたい。また、市民へのPRは市の分担とされているが、新しい直接の関わりが必要になってくると思う。図書館とは違うチャンネルというかどのような広報を考えているか。

(図書館)

家庭文庫ぱれっとは本を手渡す活動をこれまでされてきたので、利用者との対話をしたり、人との関係をつくったりすることを大事にしていきたいと伝えてらっしゃると思う。

(家庭文庫ぱれっと)

私が行っている活動は絵本が中心である。本を手放すことになった際にそれぞれの思いがその本には込められていると思う。その他家庭にあるものもそのようなものがあると思う。そういったものをただお金のやり取りだけではなく、ものと一緒に思いもつなげていくということを通常の私たちの活動でもしているし、今回の一箱古本市の中でも気持ちのやり取りもできるのではないかと思っている。大事にしたい部分もPRしながら協働していきたいと思っている。

(図書館)

広報について、今はSNSが当たり前になっているので、活用してチラシやホームページと一緒に今の時代に合った手法をいろいろ考えていきたい。

(星野委員)

コストもしっかりみていただいているので継続的な形で非常に低いコストで小牧市らしいものができていくと良いと思うし、期待している。

(戸成委員)

先ほど出ていた売買の件であるが、この取組みの良いところの一つは本が活かされることであると思う。SDGsの考え方からも本来廃棄されてしまう本が欲しい人に有効に活かされるのが一番重要だと思う。「一箱古本市」という名前から様々な制約があると伺ったが、私蔵されていた本が活かされるところに力点をおいて設計を双方でお考えいただけると良いと思った。